

『新装改訂版 現代数理統計学』

(竹村彰通 著, 学術図書出版社)

正誤表 第 1 版第 8 刷用

頁	場所	修正前	修正後
69	下 9 行目	(3.19) 式より	(3.24) 式より
204	下 9 行目	有意水準 $1 - \alpha$ の受容域	有意水準 α の受容域
206	7 行目	未知の母数 θ を含む確率 (coverage probability)	未知の母数 θ を含む確率 (被覆確率, coverage probability)
213	下 6 行目	有意水準 $1 - \alpha$ の受容域	有意水準 α の受容域
228	(10.71) 式 (2 か所)	$> \chi_{k-1}^2(\alpha)$	$> \chi_{\alpha}^2(k-1)$
230	9 行目	$p_2 - p_1$ の信頼区間としては以下の 2 標本問題の検定方式を変形して $\hat{p}_2 - \hat{p}_1 \pm z_{\alpha/2} \sqrt{\left(\frac{1}{m} + \frac{1}{n}\right) \tilde{p}(1 - \tilde{p})}$ (10.81) とおけばよい. ここで $\tilde{p}$ は以下の (10.89) 式で定義される “プールされた推定量” である.	$p_2 - p_1$ の区間推定は難しい. これは, $H_0 : p_2 - p_1 = \theta_0$ の検定が攪乱母数 (p_1) に依存し, 9.2 節で説明した信頼区間の構成が難しいためである. 簡便法としては $\hat{p}_2 - \hat{p}_1 \pm z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{1}{m} \hat{p}_1(1 - \hat{p}_1) + \frac{1}{n} \hat{p}_2(1 - \hat{p}_2)}$ (10.81) を用いればよいが, 実際の被覆確率が $1 - \alpha$ より小さくなる傾向が多く文献で指摘されている. この点についての議論や対処法については, 例えば Agresti and Caffo(2000) が参考になる.
342	末尾		以下を追加してください. また以下の論文を参照した. Agresti, A. and Caffo, B., (2000), Simple and effective confidence intervals for proportions and differences of proportions result from adding two successes and two failures, <i>The American Statistician</i>, 54, 280–288.